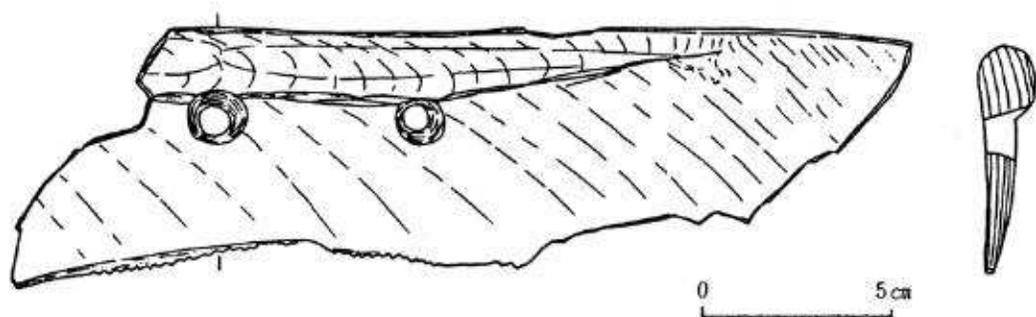


桜井市  
吉備遺跡岡崎地区発掘調査  
概報



E区Nトレンチ出土 木庖丁図

1986・3・31

桜井市教育委員会

## 序 文

桜井市は、纏向遺跡や箸墓古墳などの、日本の古代を考える上で、欠くことのできない貴重な遺跡を、奈良盆地の中でも数多く持っております。

桜井市教育委員会は、昭和60年には吉備遺跡・岡崎地区の発掘調査を実施いたしました。同時期に、銅鐸を出土した大福遺跡の調査も実施しましたので、大福遺跡ほどにはさわがれませんでした。銅鐸と同じような価値を持つ、貴重な木製品が数多く出土しました。

これらの貴重な文化財を、市民のみならず、国民全体の財産として、大切に次の世代へ引きついでいきたいと思っております。

本書が、その意味で、吉備遺跡を理解していただく資料となれば、幸いに思います。

調査にあたり、御協力いただいた吉備地区のみならず関係者各位に、御礼を申し上げ、序文にかえさせていただきます。

昭和61年3月31日

桜井市教育委員会

教育長 外 嶋 尚 春

## 目 次

序	文	
第1章	はじめに	1頁
第2章	発掘調査の経過	1頁
第3章	発掘調査の結果	2頁
(1)	遺 構	2頁
(2)	遺 物	4頁
第4章	ま と め	7頁
	調査従事者名簿	7頁

## 例 言

本書は、桜井市教育委員会が実施した、吉備遺跡岡崎地区の発掘調査概報である。

本書を作成するにあたり、桜井市地区改良課の協力と、奈良国立文化財研究所・橿原考古学研究所の御指導をうけた。特に、木庖丁に関しては、工業普通先生、樹種同定には光谷拓実先生にお世話になった。記して感謝したい。

本書の編集は、桜井市教育委員会社会教育課が行ない、技師清水真一が担当し、武田美代子が補佐した。

## 序 文

桜井市は、纏向遺跡や箸墓古墳などの、日本の古代を考える上で、欠くことのできない貴重な遺跡を、奈良盆地の中でも数多く持っております。

桜井市教育委員会は、昭和60年には吉備遺跡・岡崎地区の発掘調査を実施いたしました。同時期に、銅鐸を出土した大福遺跡の調査も実施しましたので、大福遺跡ほどにはさわがれませんでした。銅鐸と同じような価値を持つ、貴重な木製品が数多く出土しました。

これらの貴重な文化財を、市民のみならず、国民全体の財産として、大切に次の世代へ引きついでいきたいと思っております。

本書が、その意味で、吉備遺跡を理解していただく資料となれば、幸いに思います。

調査にあたり、御協力いただいた吉備地区のみならず関係者各位に、御礼を申し上げ、序文にかえさせていた。 **桜井市・吉備遺跡 岡崎地区発掘調査概報**

昭和61

## 正 誤 表

頁	行	誤	正
2 頁	19行目	妻道	妻通
7 頁	21行目	先国	全国

嶋 尚 春

序

第1章 ..... 1頁

第2章 ..... 1頁

第3章 発掘調査の結果 ..... 2頁

(1) 遺 構 ..... 2頁

(2) 遺 物 ..... 4頁

第4章 ま と め ..... 7頁

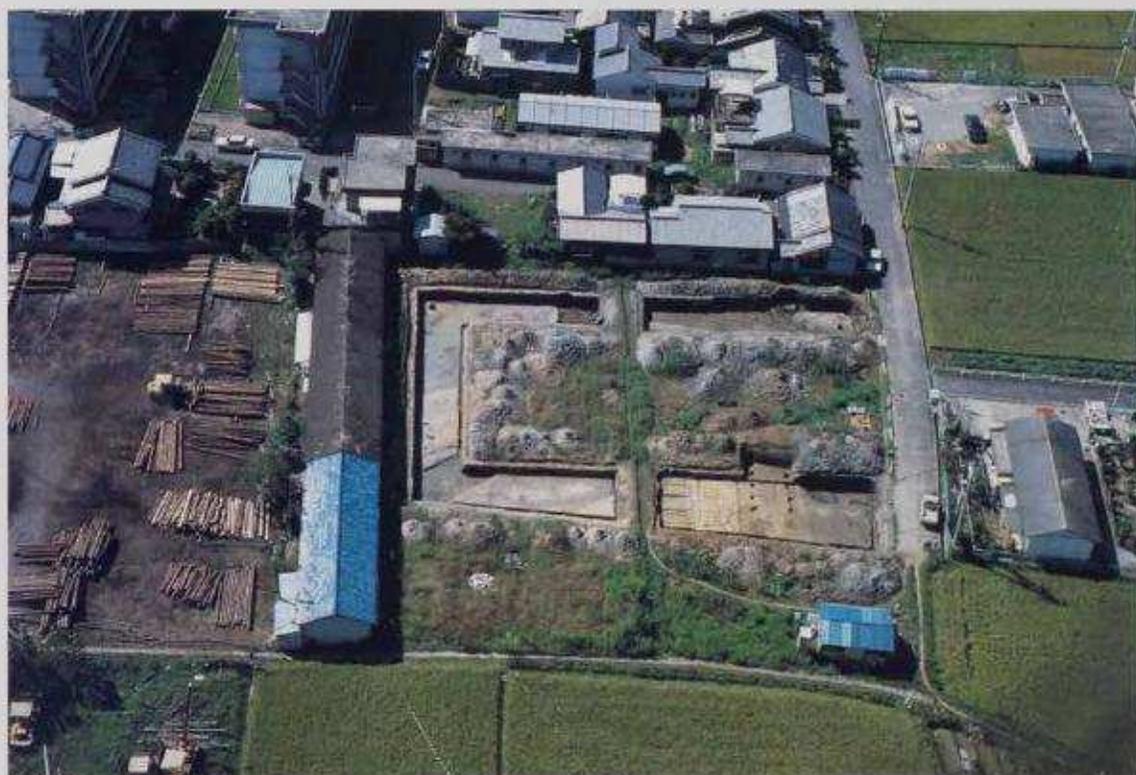
調査従事者名簿 ..... 7頁

## 例 言

本書は、桜井市教育委員会が実施した、吉備遺跡岡崎地区の発掘調査概報である。

本書を作成するにあたり、桜井市地区改良課の協力と、奈良国立文化財研究所・榎原考古学研究所の御指導をうけた。特に、木棺丁に関しては、工業普通先生、樹種同定には光谷拓実先生にお世話になった。記して感謝したい。

本書の編集は、桜井市教育委員会社会教育課が行ない、技師清水真一が担当し、武田美代子が補佐した。



航空写真



遺物出土状況

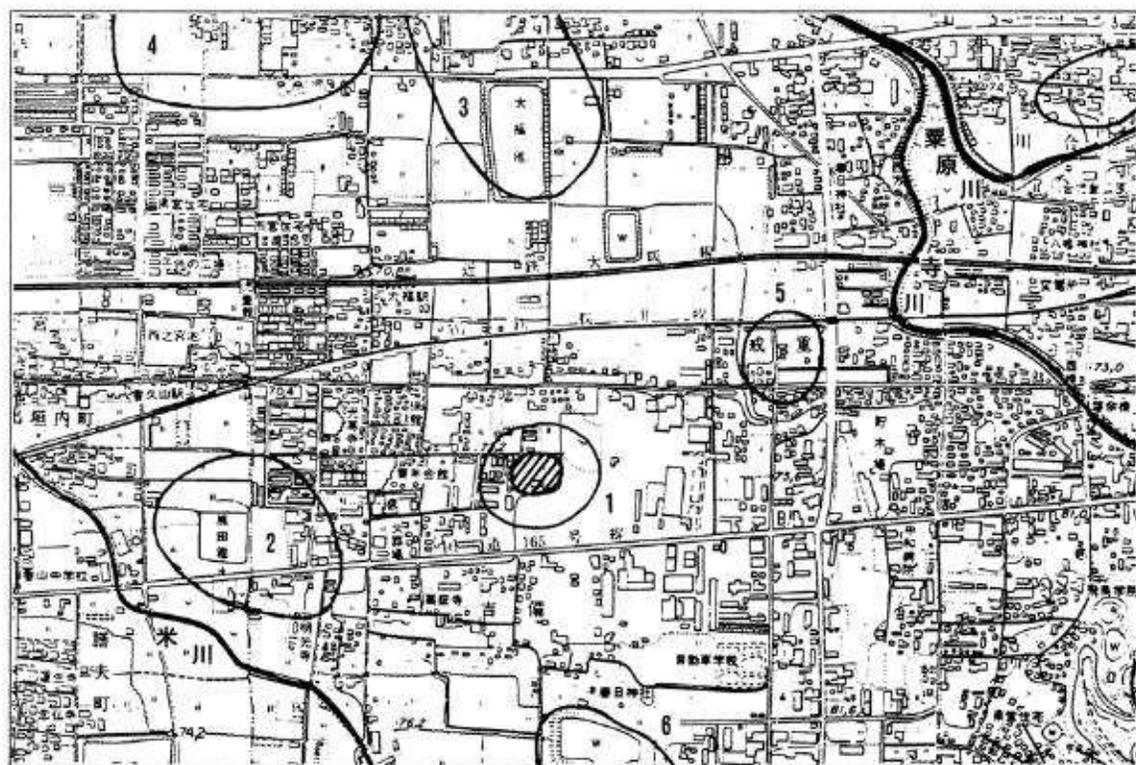
## 第1章 はじめに

吉備遺跡(図1-1)は、桜井市の南西部、寺川と米川とによって形成された、沖積平野の上にある。付近には、西に黒田池遺跡(同一-2)、北に大福池遺跡(同一-3)、北西には銅鐸の出土した大福遺跡(同一-4)、東には戒重遺跡(同一-5)があり、縄文~弥生時代の遺物を出土しており、古くから村落が栄えていた地域と考えられている。今回発掘調査したのは、小字岡崎地区の水田部分で、すぐ東100mには、小字サイニウジと呼ばれる高さ3mほどの微高地があり、吉備寺跡との関連があるのではと考えられていた。また、吉備小字大角では、藤原京につながるかとみられる道や溝が発見されており、その延長が存在する可能性も考えられている場所だった。

## 第2章 発掘調査の経過

この吉備小字岡崎の地に、桜井市・地区改良課が、住宅敷地整備事業の一つとして、岡崎地区の1,340㎡の改良に着手する計画を立て、桜井市教育委員会が発掘調査を担当したものである。調査は60年7月1日に着手し、9月30日に終了した。調査面積は600㎡であった。8月31日には、地元吉備地区を中心とした市民を対象とする現地説明会を実施し、100名の参加を得た。

昭和61年3月28~30日にかけて、桜井市中央公民館祭の文化財展に出土品の展示を行ない、市民の皆さんに見学してもらった。



挿図1 吉備遺跡位置図 1/15,000

### 〔発掘調査日誌〕

7月1日	トレンチ設定・調査開始。		庖丁出土。
8日	ユンボによる表土はぎ終了。	8月31日	現地説明会を開催。
15日	S区で掘立柱建物1棟検出。	9月6日	W区Nトレンチから土器・木器多量出土。
25日	第1次の中世素掘溝面を調査し、 第2次遺構面にとりかかる。		この頃から、大福銅鐸見学帰りの 人が、立ち寄られるようになる。
8月9日	W区Nトレンチで、布留期の南北 方向の溝検出。	18日	W区Sトレンチの北端で、木器や 土器多く出土。
19日	E区Nトレンチで掘立柱建物1棟 を発見する。1間×3間以上。	20日	最終断面のたち割りで、E区Nト レンチから縄文晩期の土器出土。
22日	E区Sトレンチの南で、弥生時代 後期の土器多量出土。	10月1日	航空写真をとり、現地埋めもどし を行う。
27日	E区Nトレンチの北西すみで、木		

## 第3章 発掘調査の結果

### (1) 遺 構

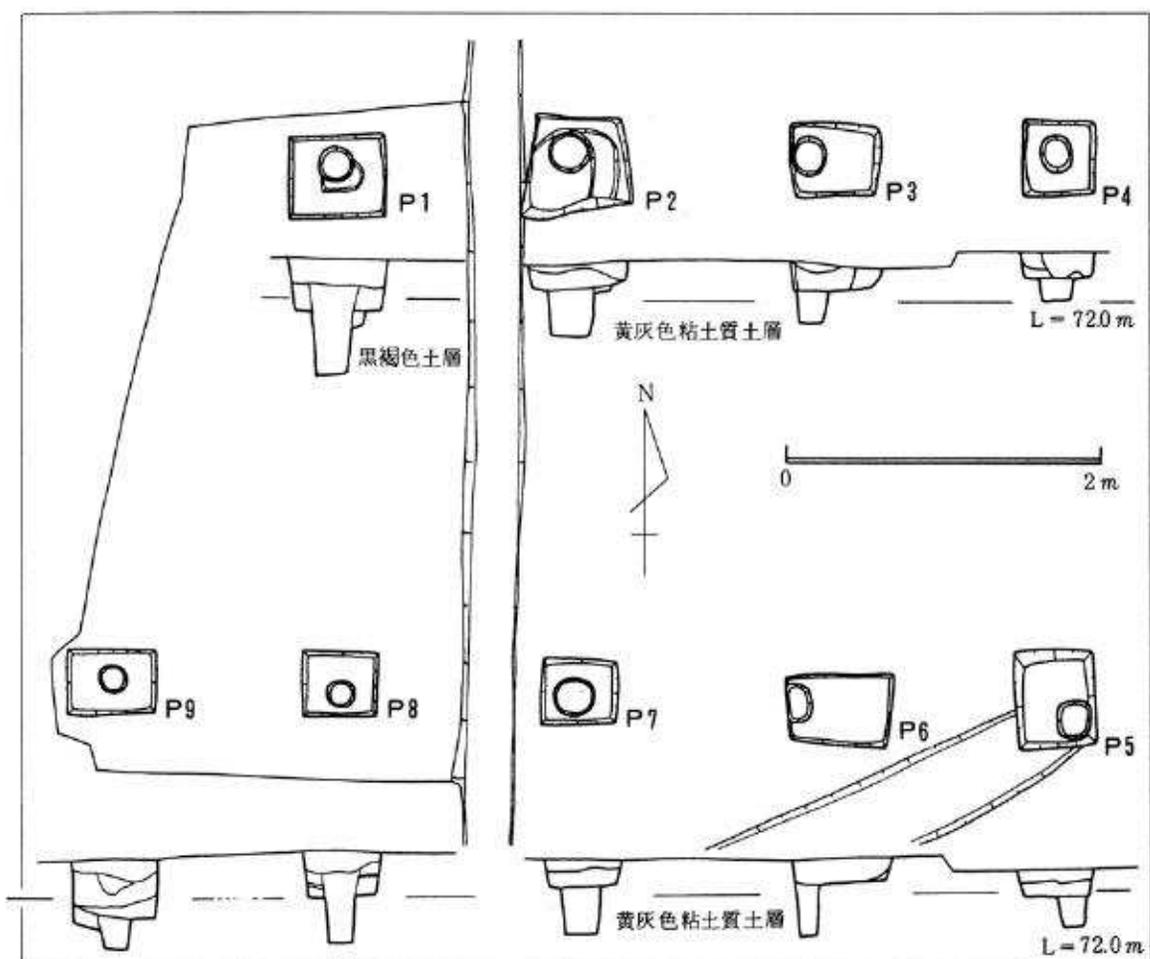
#### 掘立柱建物2

E区Nトレンチから検出されたもので、4間以上×1間の東西棟で、主軸はN-81°30'-Wである。Nトレンチは、北西側に旧河道が蛇行して流れており、旧河道が削り残した黄褐色の堅い台地上に建てられていた。梁行6.4m以上、妻道3.6mある。北西隅をP1として右まわりで、柱間距離はP1-P2から1.50・1.50・1.60・3.60・1.80・1.50・1.50・1.50mを計る。1尺30cmを基本とし、5尺・6尺・12尺がみられる。柱穴規模はP1から(60×50-74)・(60×60-100)・(60×50-99)・(50×50-76)・(64×50-93)・(70×50-89)・(50×40-98)・(50×40-57)・(60×40-56)cmである。

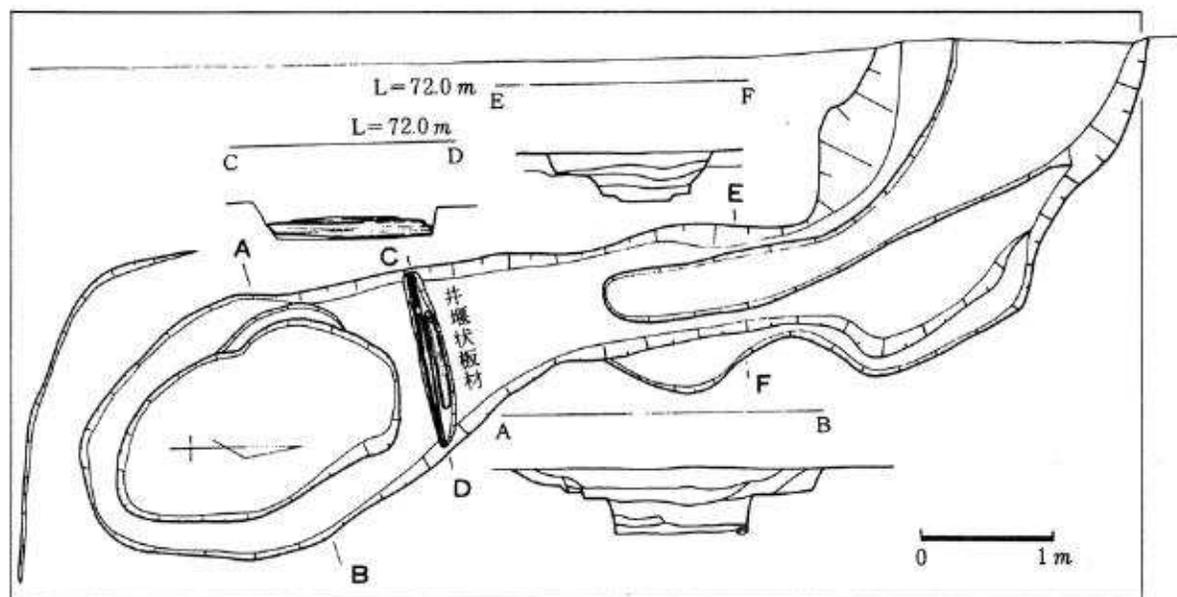
出土遺物は、P1・P6～P9の5つの掘形の中から、若干の土器が出土している。大半が土師器甕の破片で、少量の須恵器が混っている。小片で、時期を決定するまではいかないが、7世紀後半～8世紀前半代の建物と考えられる。(挿図2・図版2)

#### 井戸状遺構

W区Sトレンチで検出された。長軸2.8m・短軸2.0mの土坑から、排水溝状のものが5.5m分、外へのびている。その接点部には、二枚の板を二段にして井戸状に作ってある。土坑内は二段に掘り込んであり、深さ30cmほどである。形態的には、井戸というよりも水溜め場的な遺構である。土坑内から少量の土師器と、5個の桃核が発見された。土師器から、古墳時代前期・布留式期と考えられる。(挿図3・図版4)



挿図2 掘立柱建物2 遺構図



挿図3 井戸状遺構図

### 旧河道（挿図4～7・図版3・5・7）

E区Sトレンチの南端、W区Sトレンチの北端、W区Nトレンチを南北に横切り、E区Nトレンチの北西端の4ヶ所に、厚い灰褐色粘土や腐植土を含む層をもつ溝が存在した。底には灰白色の砂礫が堆積している点も共通し、図4のような大きく蛇行した旧河道であったとみられる。各トレンチの旧河道は、多量の弥生土器と少量の木器・自然遺物を含んでいた。

土器の出土状況は、放棄したような状況を示しており、復元すると完形になる個体も多くみられた。器種は壺・甕・高杯・器台とセットで存在し、大型のものもあれば小型のものも多くみられ、日常生活で使用された土器類が大半である。また、木器では、農耕用の器具の他、赤色に塗布した祭祀用とみられる木片もいくつかみられた。自然遺物では、桃核やトチノ実の他、ドングリやヒョウタンも出土している。これらのことは、旧河道の近辺に集落が存在したことを意味しているだろう。

## (2) 遺物

### 弥生土器（挿図8～13・図版11～15）

土器は、旧河道内から、コンテナ100箱分もの破片が出土している。大半は弥生時代後期のものであるが、地区や層位によって、若干時期差が認められる。挿図8のW区Nトレンチ上層の土器群は、長頸壺と杯部に段をもつ高杯が主体となっており、ミニチュアに近い小型壺や鉢が多くみられる。甕や鉢の口縁端をカットしたものが目立つ。これに対して同下層の土器群（挿図9）では、つまみ上げたままの甕が多く、長頸壺や外反する口縁をもつ壺には、竹管文や円形浮文を貼り付けている。若干の時期差としてとらえられよう。挿図11のW区Sトレンチでは、下層の長頸壺53・54が、Nトレンチの1・2に近く、上層の高杯50は、E区Nトレンチ下層の高杯78・79より一そう杯口縁部を直立させている特徴をもつ。これに対して、E区Nトレンチ下層（挿図10）では、長頸壺の頸部がさらに長くなったり、甕の複合口縁化がみられる。器台も胴部が長く、高くなる傾向をもつ。これらのことから、旧河道内の土器群は、弥生時代後期中葉を前後する時期のものと考えられ、上層の土器は後期中葉の古い段階、下層は後期中葉の新しい段階のものかと考えられよう。

### 木器（挿図14～16・図版16～18）

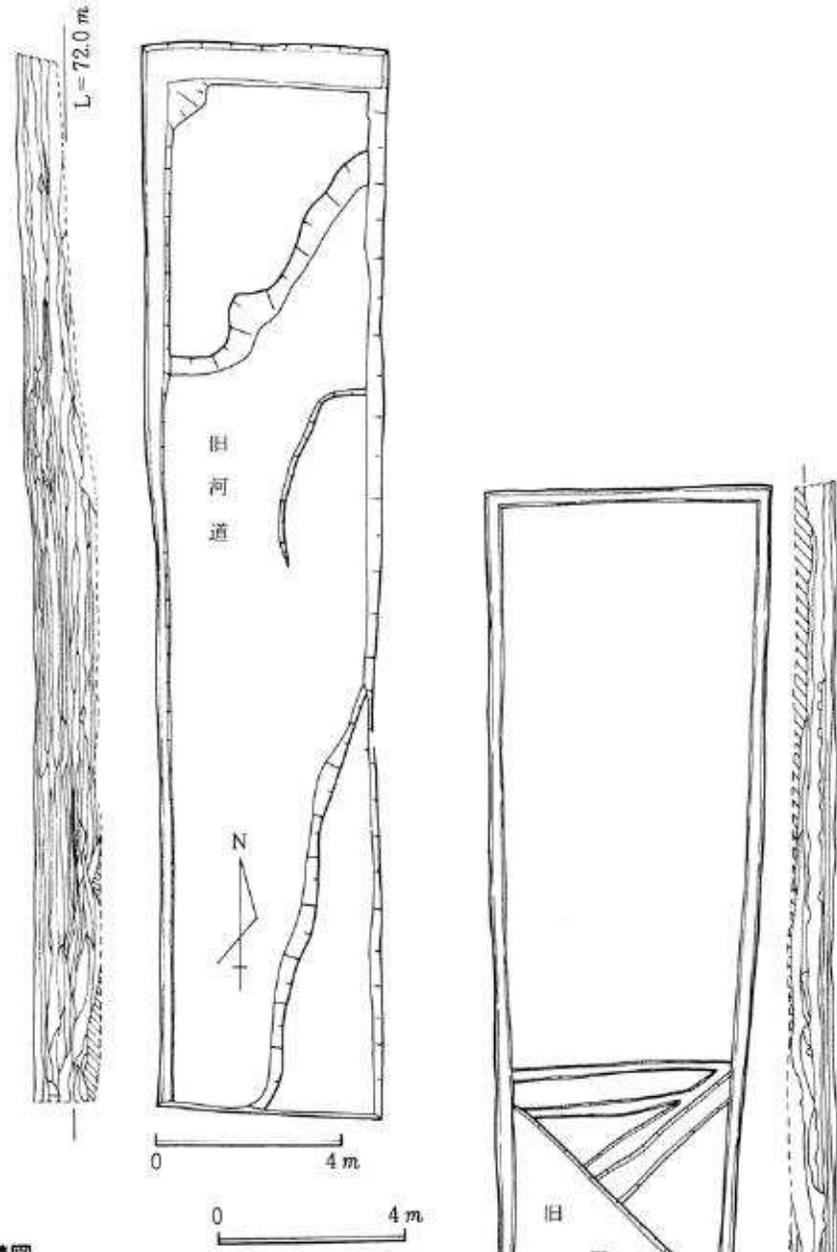
木器も、旧河道内から、コンテナ10箱分もの量が出土した。同じく弥生時代後期のものであり、農耕具と祭祀具がある。

挿図14の1・3～5はクワの破片と考えられる。円形の柄をつける孔に大小がみられ、3は内側に溝がほられている。2は、鋤状の形態をしているが、扁平な材で、用途はよくわからない。6はきぬたで、使用痕が残っている。1～7はすべてW区Nトレンチ出土である。木庖丁（挿図16・8～10）は、三種類ある。長大な8は、平行四辺形型で、手元側は独特の形で終っている。富山県江上A遺跡や石川県近岡遺跡などでみられる形態に類似し、北陸から近江にかけて分布する形態である。木材の樹種はヤマグワである。9は一般的な木庖丁の形態であろう。10は、木庖丁としては最

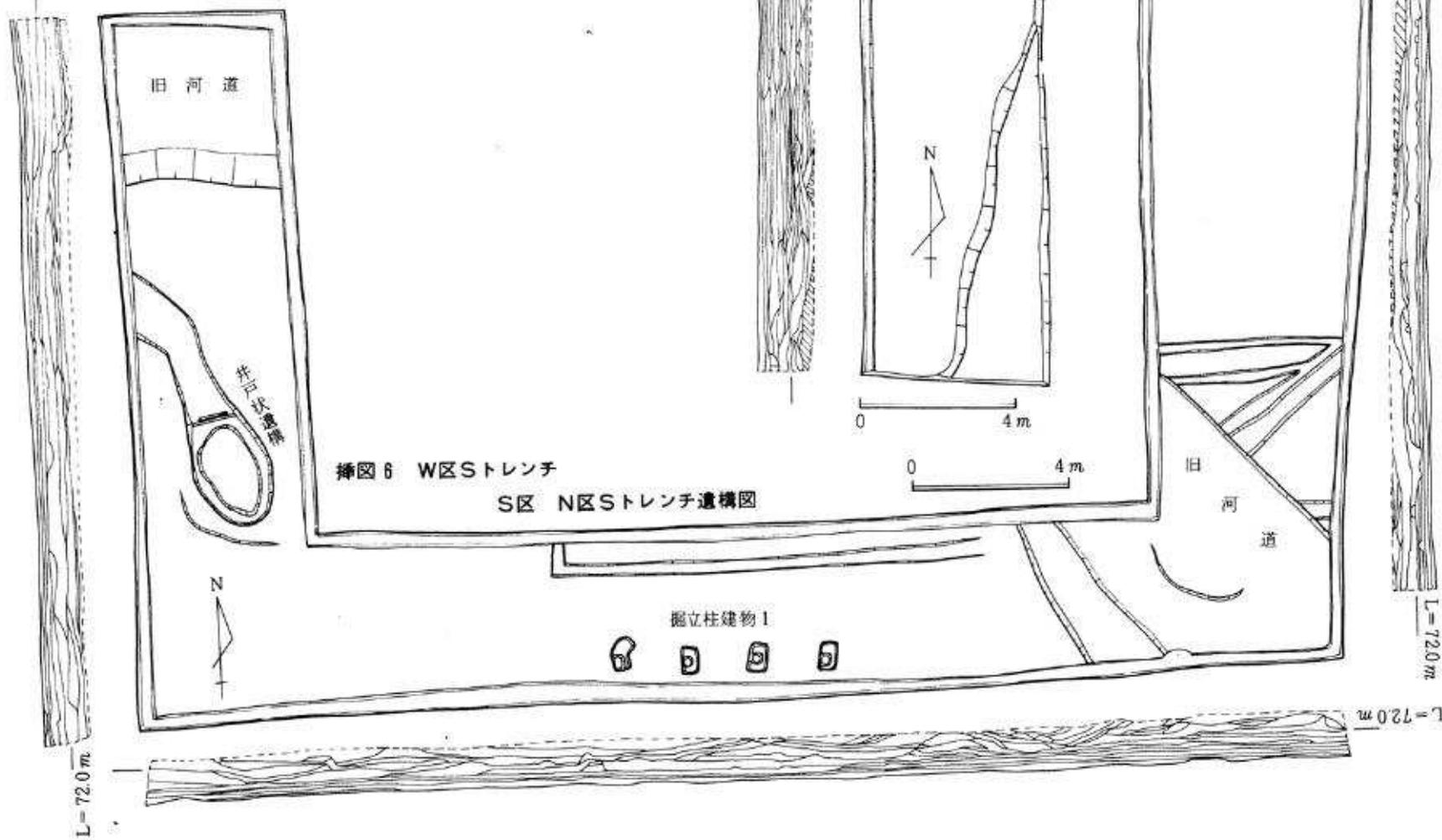
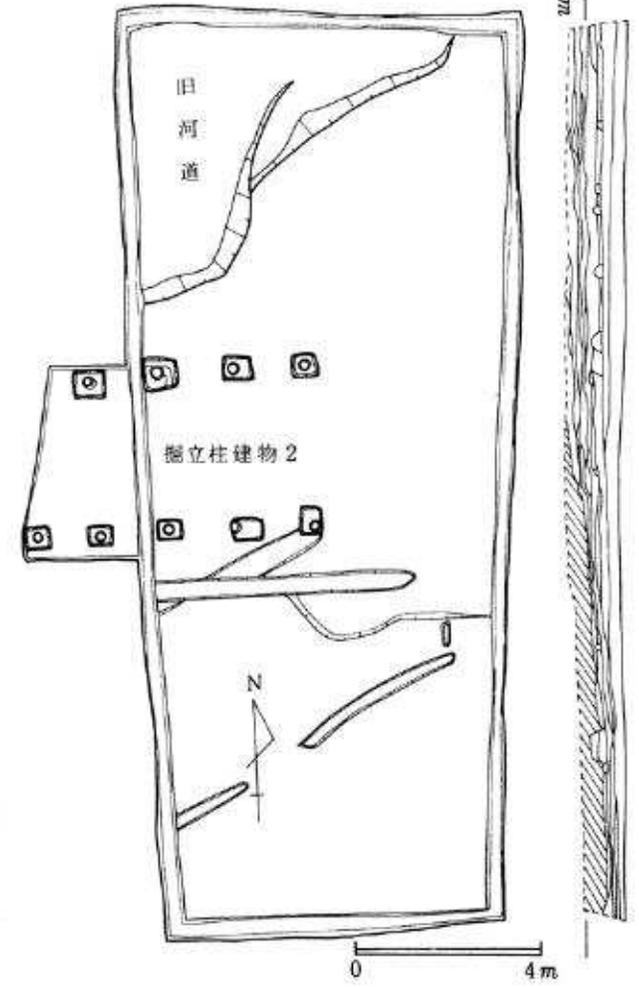
挿図4 トレンチ位置図



挿図5 W区Nトレンチ遺構図



挿図7 E区Nトレンチ遺構図



挿図6 W区Sトレンチ  
S区N区トレンチ遺構図

小綴で、孔も1個しかない。兵庫県玉津田中遺跡出土のものも1孔であるが、全長11.6 cm あり、ここのは8 cm しかない。

11は、表面に赤色顔料がぬられているが、小孔が7個あいており、若干表面が凸状を示している。他の遺跡の出土例から、木製盾と考えられている。

12は、きめた形をしているが、6とは作りが全く異なり、表面はていねいに研磨され、頭部に黒漆がぬられ、下部には黒漆の上に赤色顔料がぬられていた。胴部にもかすかに赤色顔料が残っており、本来は真赤に塗られていたものだろう。下部には3 cmの楕円形の孔があけられており、棒が差し込まれていた。材質はともにヒイラギである。おそらく旗頭状に長い棒の上につけられていたものであろう。

13は、竹トンボ形をした木製品で、内外面赤色顔料がぬられており、裏面と考えられる部分には、円形の色のつかないところがあった。これも棒状のものの先につけていたとみられる。

14は、芯の空洞になった木材を両側から孔をあけており、竪笛形をしている。樹種はウツギで、広葉樹であり、笛になる可能性は少ないとみられる。

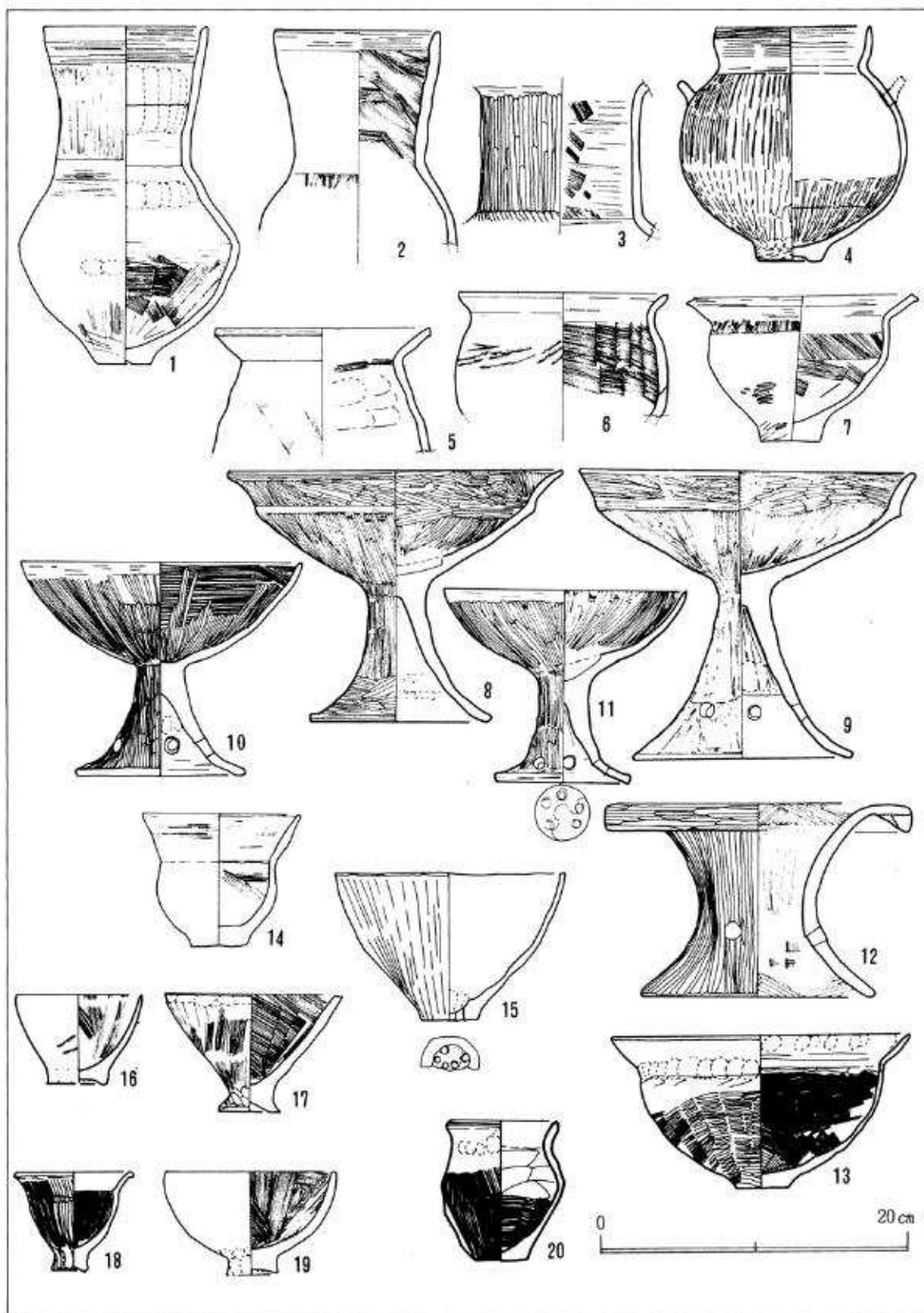
## 第4章 ま と め

吉備遺跡岡崎地区に入れたトレンチから、蛇行した旧河道が検出され、多量の土器・木器が検出できた。弥生時代後期中葉を前後する時期のものともみられ、旧河道の堆積状況を見ると、中葉以後に洪水等で一気に埋った可能性がある。いわば、吉備遺跡岡崎地区に所在したであろう弥生時代後期の集落は、中葉頃に存在し、後葉には他地区へ移動したのと考えられる。この短期間に住んだ人々の、日常の生活用具・農耕具、そして祭祀用具の一端が、ここに再び陽の目をみたわけで、今後彼らの生活の匂いなるべく忠実に復元することをこころみつつもりである。

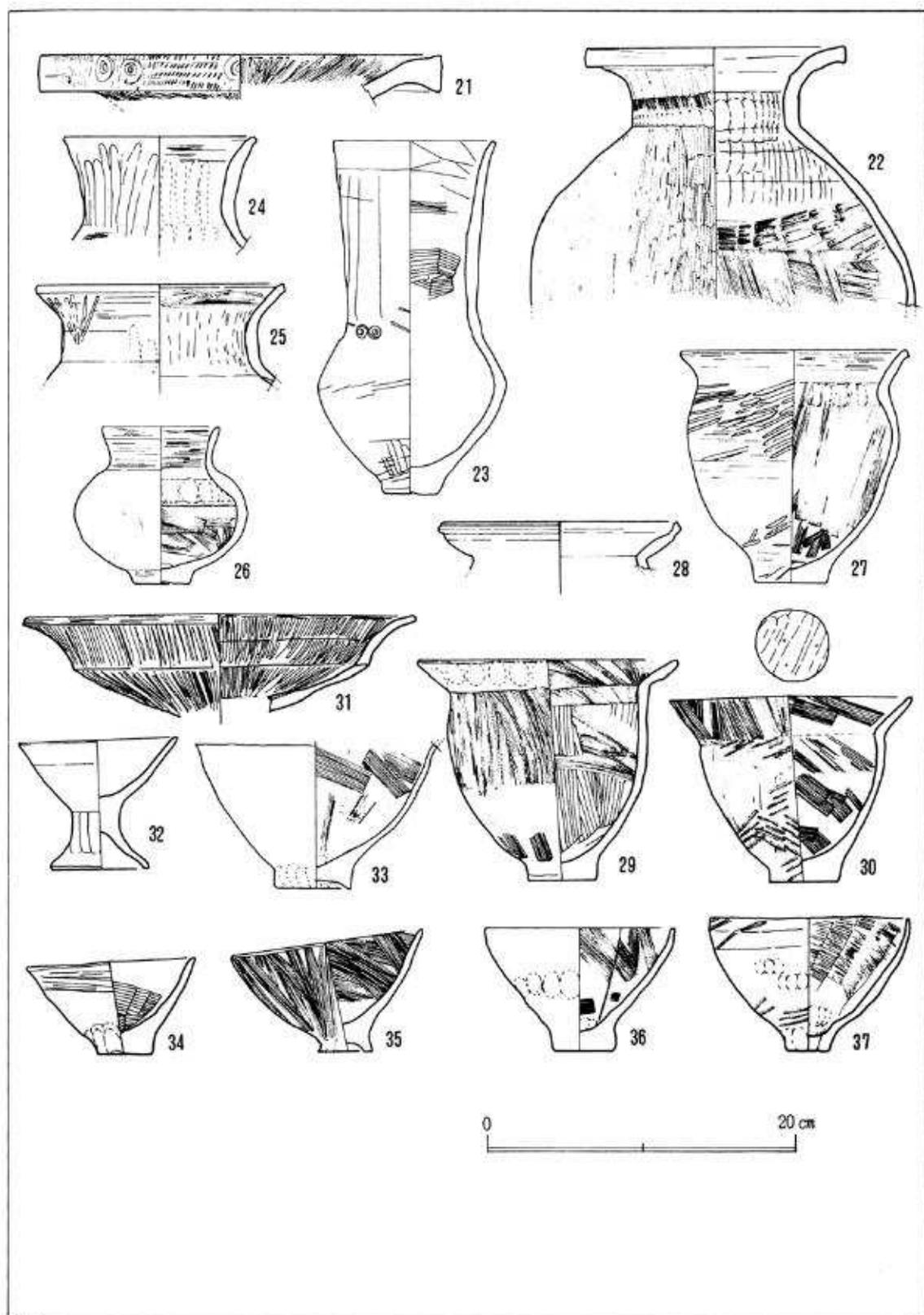
古墳時代には、前方後円墳をはじめとする高塚墳墓が、先国に先がけて作られたこの磯城・磐余の地は、まだまだ前段階の弥生時代中～後期の集落遺跡が埋れていると考えられる。これらの遺跡を一つ一つていねいに掘りおこしていくことが、日本の古墳時代出現の謎を解明できる、一つの手段になることを、調査している私たちは確信している。

### 〔調査従事者名簿〕

青木久子	池崎庄次郎	石田敏雄	植田至紀	上西千代造
上室八重子	家納佳江	草原孝典	楠本美野子	栗野員雄
栗野正一郎	小島弘美	田中義清	西條利男	清水真一
高奥ケイ子	高奥久子	武田美津子	武田美代子	内藤新治
中西智子	中西善吉	中西幸子	西川イク代	萩原儀征
橋詰清孝	平岡高雄	堀田善右エ門	増田義雄	松田有司
森 勇	山本忠雄	山本平一	柳橋桂子	



挿図8 W区Nトレンチ上層出土 土器図



挿図 9 W区Nトレンチ下層出土 土器図

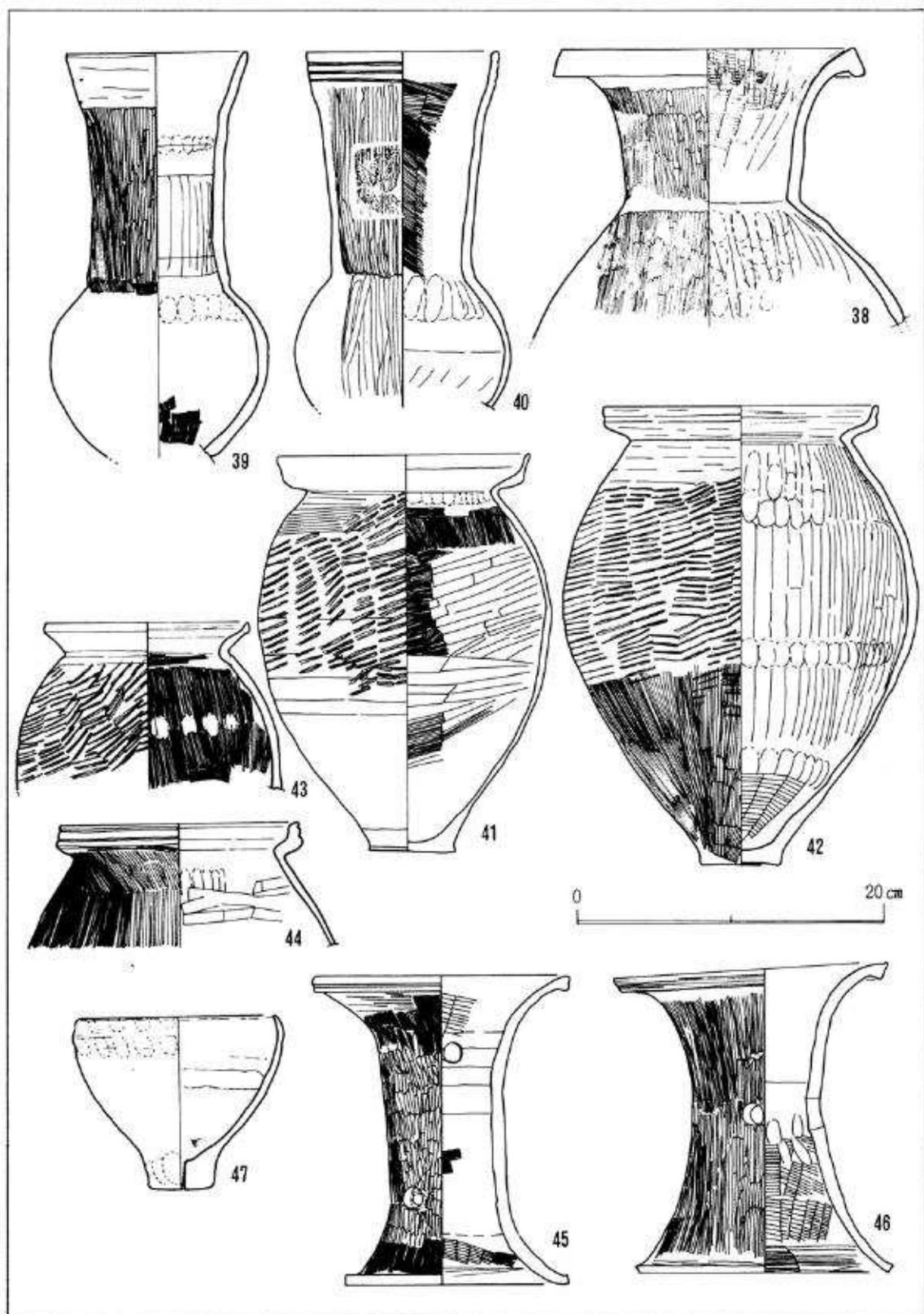
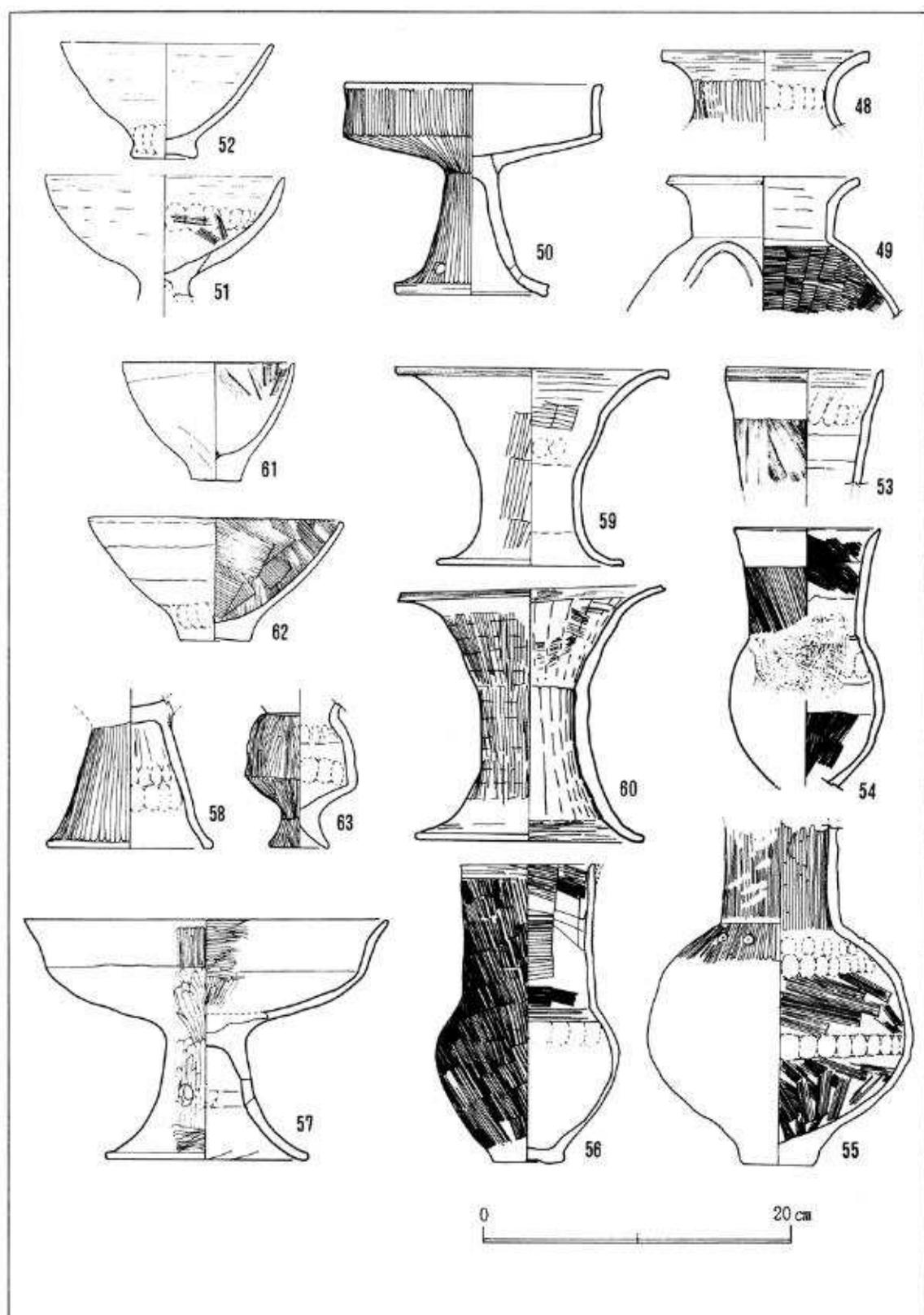
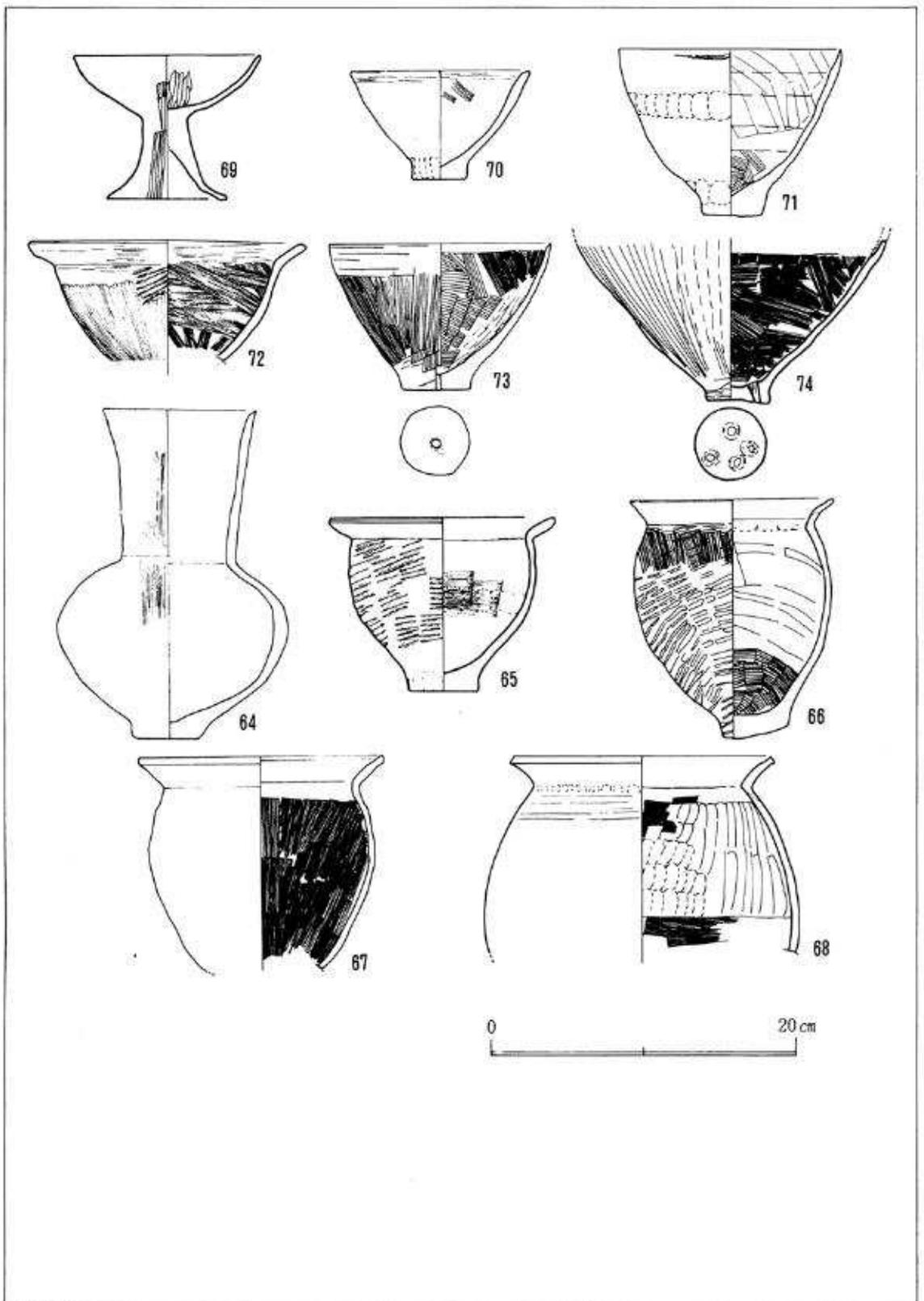


插图 10 S区出土 土器图



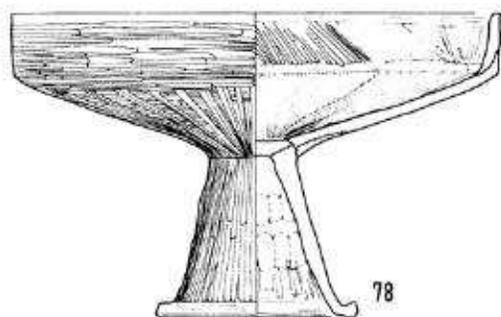
挿図11 W区Sトレンチ出土 土器図



挿図 12 E区Sトレンチ出土 土器図



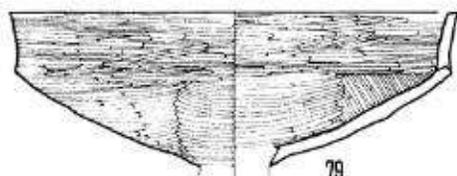
75



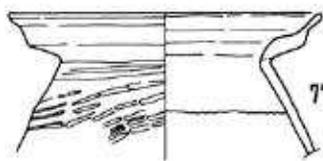
78



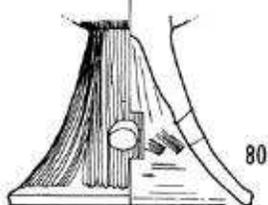
76



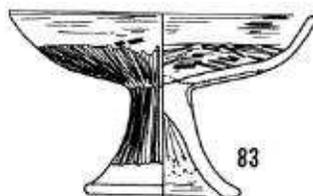
79



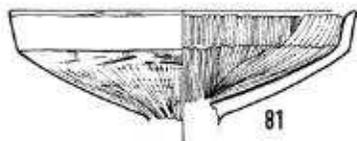
77



80



83



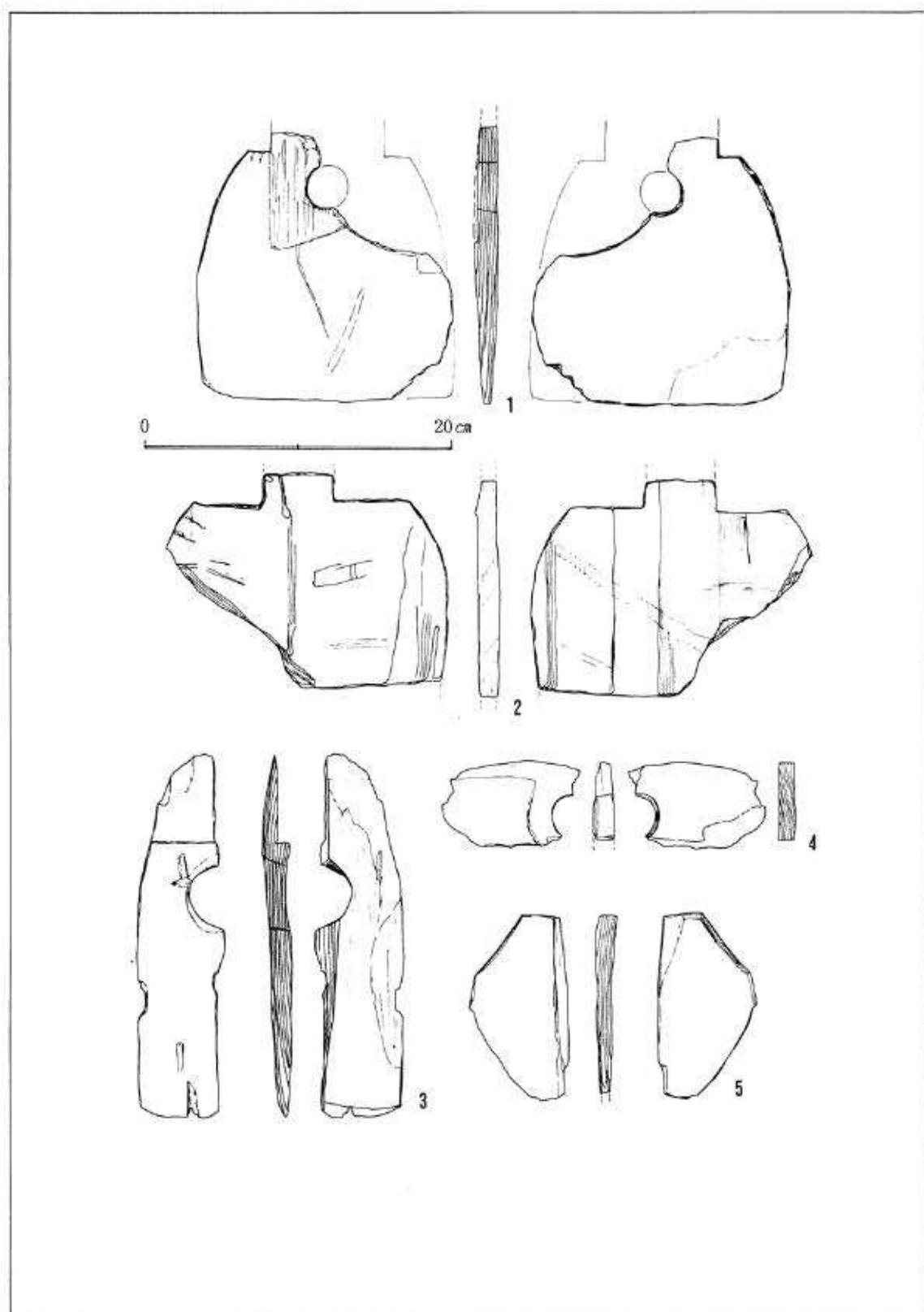
81



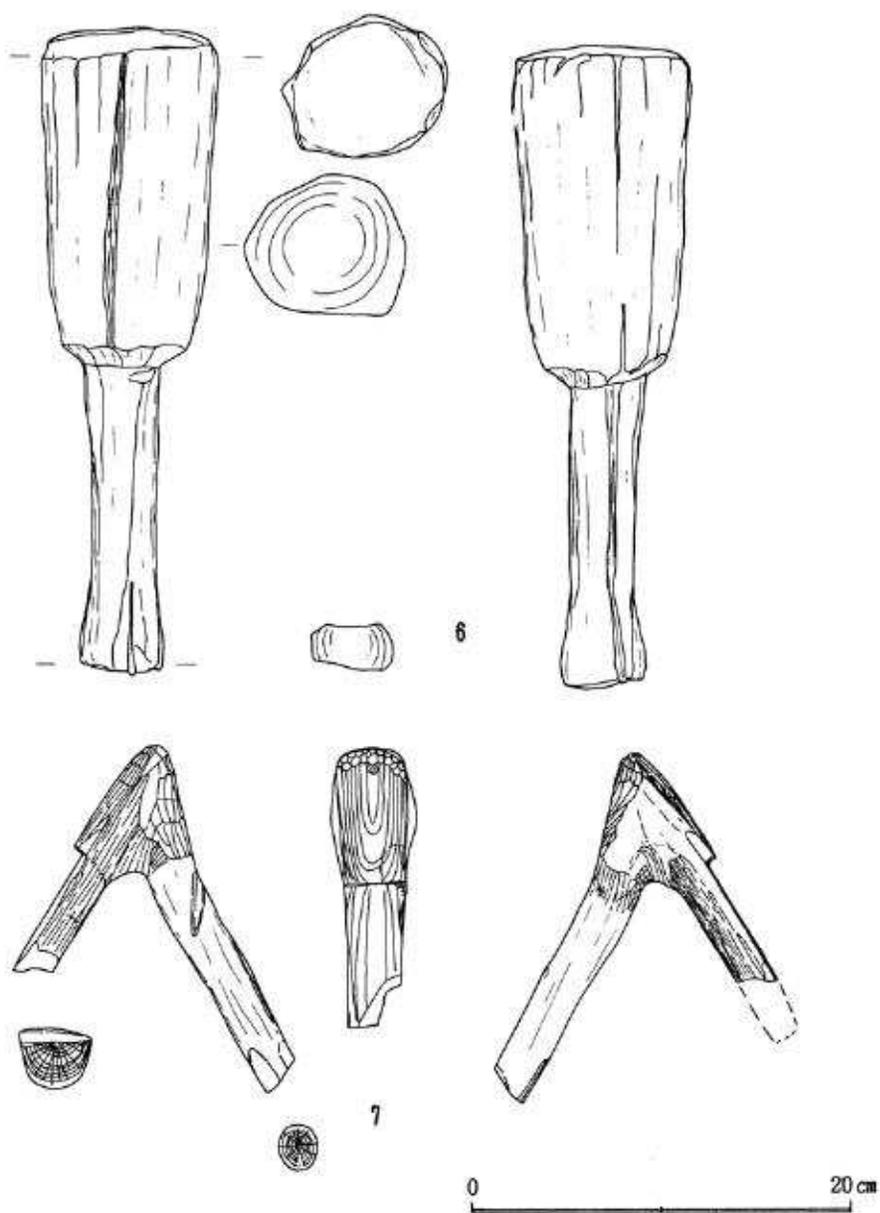
82



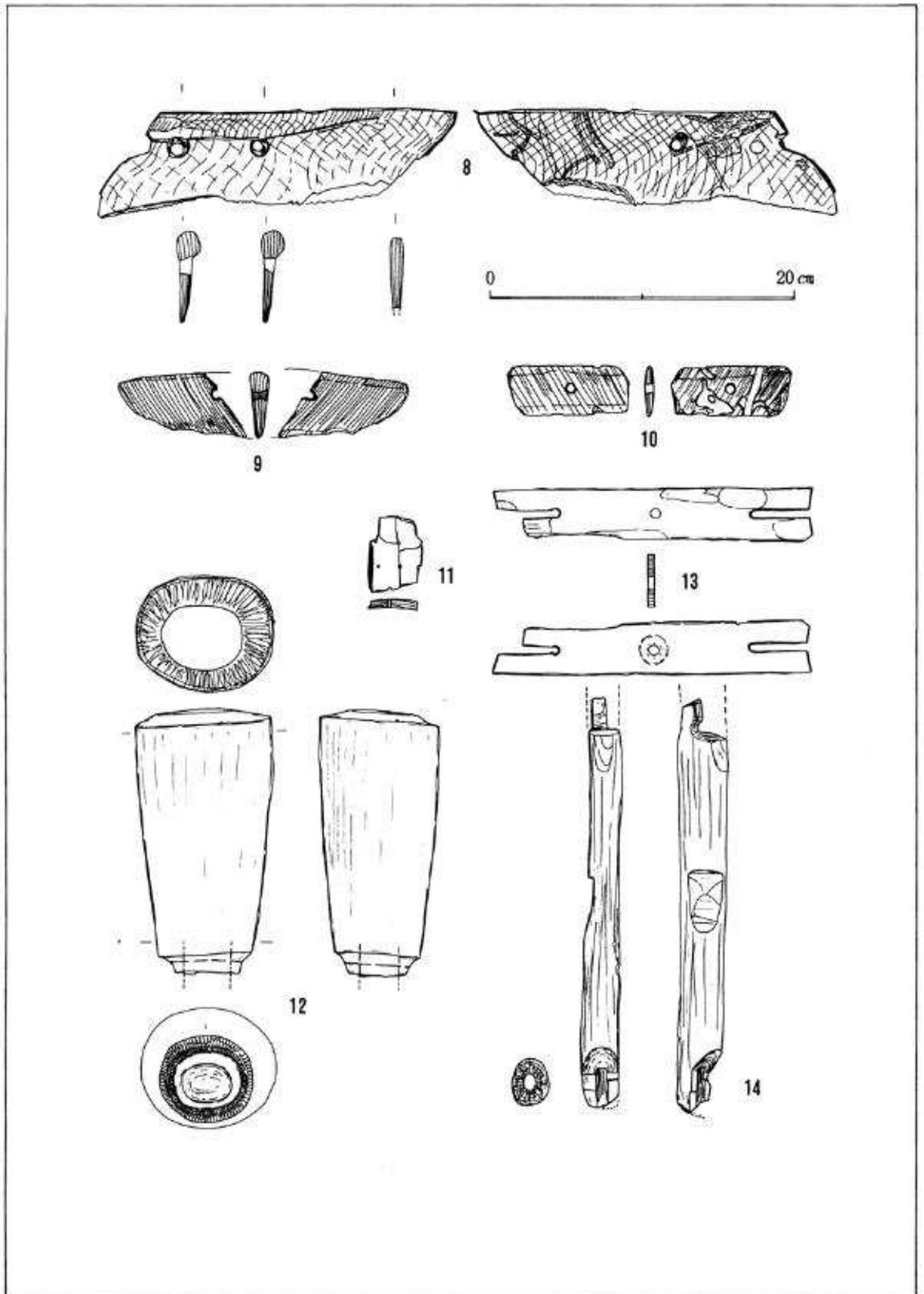
挿図 13 E区Nトレンチ出土 土器図



挿図 14 W区Nトレンチ出土 木器図（農具）



挿図15 W区Nトレンチ出土 木器図(農工具)



博図 16 各トレンチ出土 木器図



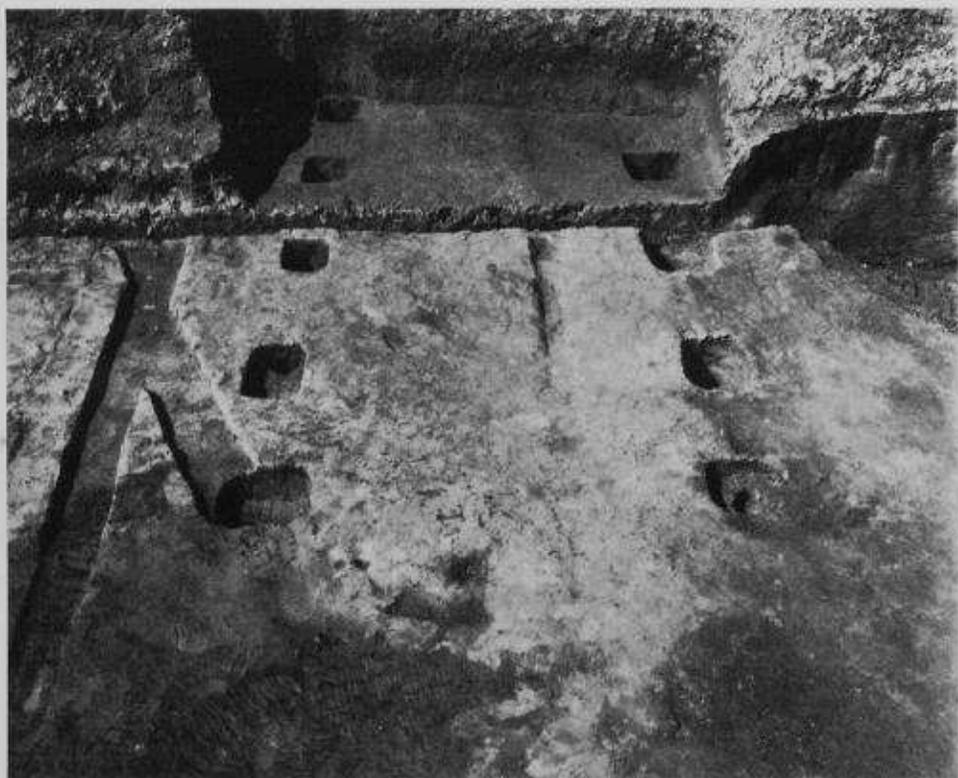
発掘現場から北東方向 三輪山を望む



発掘現場 航空写真（北から）



E区Nトレンチ 中世素掘溝面（北から）



E区Nトレンチ 掘立柱建物1（東から）



E区Nトレンチ旧河道（北から）



E区Nトレンチ旧河道内土器群（北から）



W区Sトレンチ井戸状遺構（北から）



W区Sトレンチ井戸状遺構（南から）



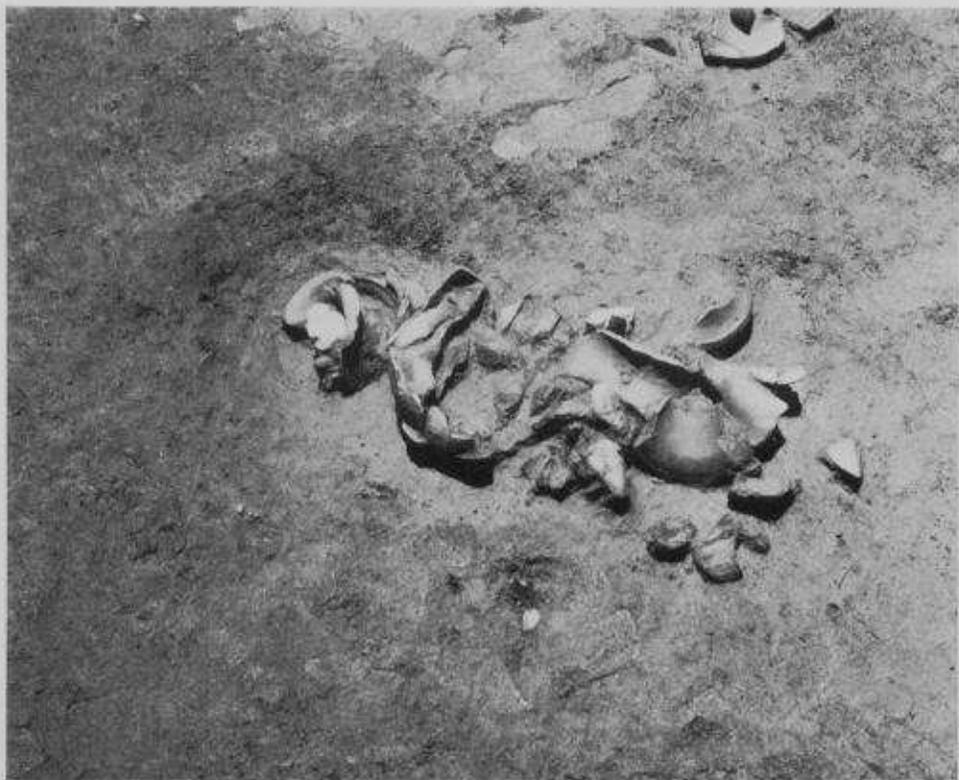
W区Sトレンチ旧河道（北から）



S区トレンチ内出土土器群（北から）



S区トレンチ内出土土器群



S区トレンチ内出土土器群



W区Nトレンチ (南から)



W区Nトレンチ土器・木器群出土状況 (南から)



W区Nトレンチ土器・木器群出土状況 (北から)



W区Nトレンチ旧河道 (北から)



W区Nトレンチ出土 用途不明木製品出土状況



E区Nトレンチ出土 木庖丁出土状況



W区Nトレンチ出土 鍍形木製品出土状況



W区Nトレンチ 丹塗り木製品出土状況



W区Nトレンチ 木庖丁出土状況



W区Nトレンチ 黒漆塗り木製品出土状況



W区Nトレンチ スキ形木製品出土状況



W区Nトレンチ 縦形着装斧柄出土状況



①



②



③



④



⑤



⑥



⑨



⑦



⑧



⑩

① 挿図 8-9

② 挿図 8-8

③ 挿図 8-11

④ 挿図 8-10

⑤ 挿図 8-17

⑥ 挿図 8-18

⑦ 挿図 8-19

⑧ 挿図 8-14

⑨ 挿図 8-4

⑩ 挿図 8-7



①



②



③



④



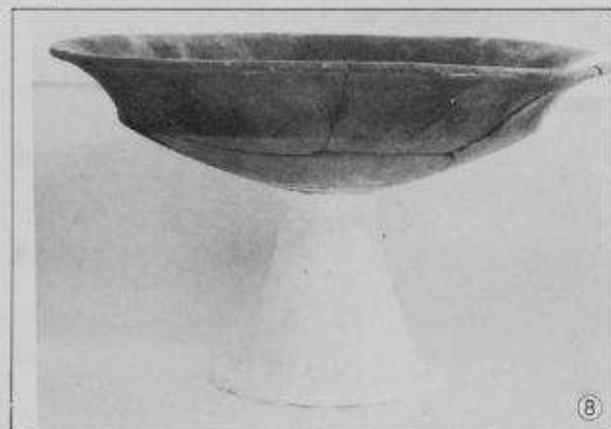
⑤



⑥



⑦



⑧

① 挿図 8-20

② 挿図 9-22

③ 挿図 9-23

④ 挿図 9-29

⑤ 挿図 9-34

⑥ 挿図 9-30

⑦ 挿図 9-36

⑧ 挿図 9-31



①



②



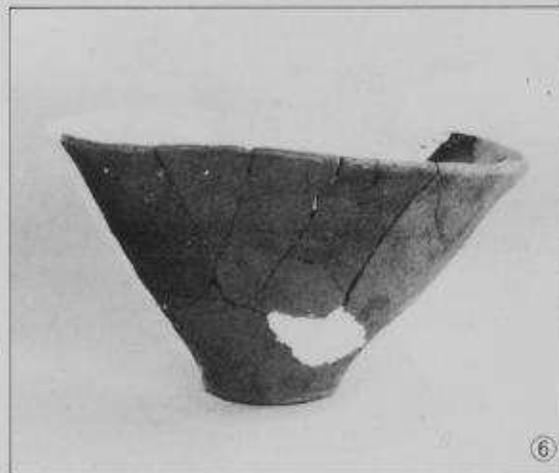
③



④



⑤



⑥

① W区Nトレンチ出土

② 挿図 11-49

③ 挿図 10-40

④ 挿図 11-54

⑤ 挿図 11-56

⑥ S区出土



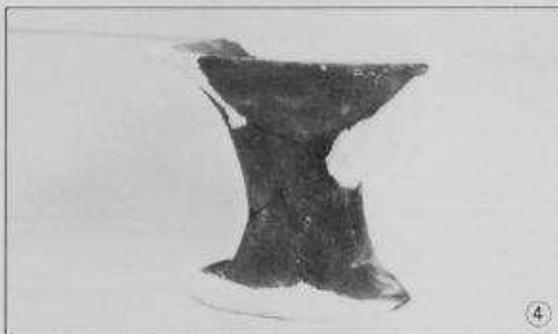
①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

① 挿図 11-61

② 挿図 11-62

③ 挿図 11-50

④ 挿図 11-59

⑤ 挿図 10-41

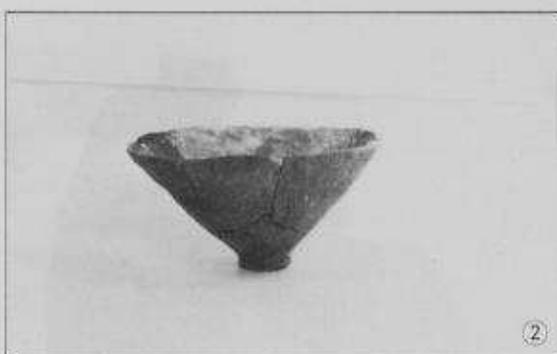
⑥ 挿図 10-38

⑦ 挿図 10-46

⑧ 挿図 10-42



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

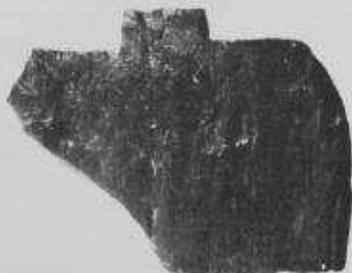


⑨

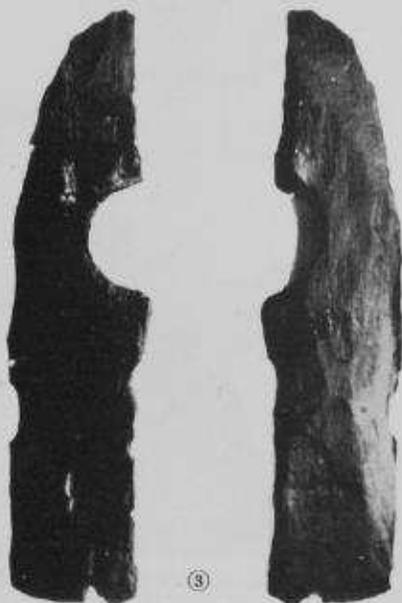
① 挿図 12-73 ② E区Sトレンチ出土 ③ 挿図 12-65 ④ E区Sトレンチ出土 ⑤ 挿図 12-66  
 ⑥ 挿図 13-76 ⑦ 挿図 13-79 ⑧ 挿図 13-83 ⑨ 挿図 13-78



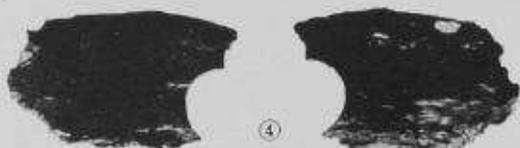
①



②



③



④



⑤

① 挿図 14-1

② 挿図 14-2

③ 挿図 14-3

④ 挿図 14-4

⑤ 挿図 14-5



①



②

① 挿図 15-6

② 挿図 15-7



①



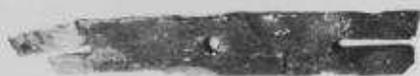
②



③



④



⑤



① 挿図 16-8

② 挿図 16-9

③ 挿図 16-10

④ 挿図 16-11

⑤ 挿図 16-12

桜井市・吉備遺跡・岡崎地区  
発掘調査概報

発行年月日 1986年3月31日  
編集発行 桜井市教育委員会  
印刷 小川文洋堂印刷